

Epson 25 第2期中期経営計画説明会
主な質疑応答

● 全社

Q：第2期中期経営計画の期間では、外部環境はどのような前提としたのか。

A：これまでのエプソンの業績は、エマージング地域での成長にけん引されてきたが、足元では、中国や中南米経済の停滞影響を受けていることもあり、今後も外部環境は厳しい状況が継続する前提とした。

Q：営業力の強化をポイントに挙げているが、第2期中計期間の3カ年は、営業力強化のためのコストが先行することで、リニアな利益成長にはならないのか。

A：営業力強化のための費用執行にあたっては十分にコントロールする。ただし、第1期に仕込んだ基盤をベースにした新商品が売上収益に結びつくには時間がかかる商品もあるために、利益成長はリニアにはならない。

Q：持続可能な社会実現に対する期待の高まりをビジネスチャンスにつなげるとしているが、どのようなビジネスの事例があるのか。

A：例えば、乾式オフィス製紙機「PaperLab」と高速ラインインクジェット複合機を使った、オフィス内における紙の循環を実現することでSDGsの達成に貢献するという事例がある。エプソンでは既に導入されており、こうしたことを、他の企業と協働で広めることを検討している。

● インクジェットイノベーション

Q：商業・産業 IJP で大きな成長を計画しているようだが、この中に含まれるプリントヘッド外販ビジネスの寄与度を教えて欲しい。

また、商業・産業 IJP の成長のためには、さらなる追加投資が必要となるのか。

A：商業・産業 IJP では、フォト・サイネージ・テキスタイル・ラベル向けのエプソンブランドのプリンターや、プリントヘッド外販ビジネスで成長を見込んでいる。この内、プリントヘッド外販ビジネスでは100億円程度の増加を期待している。

また、商業・産業 IJP の成長は、第1期で竣工した新工場の能力の範囲内で十分対応可能。新工場の稼働開始に合わせた装置導入の費用は2019年度にも予定しているが、これ以上の大きな追加投資は不要。

Q：他社もオフィス市場向けにインクジェット複合機を投入したが、対応策などを教えて欲しい。

A：エプソンにとっての最大の関心事は、他社のインクジェットプリンターにどう対抗しようかということではなく、どうやってオフィスプリンターをレーザープリンターからインクジェットプリンターに置き換えていくかということである。

他社の新モデル投入は、インクジェットプリンターの訴求という面からは歓迎することであり、今後も、切磋琢磨しながら、インクジェットプリンターへの置き換えを進めて行きたい。

Q：オフィス共有では、高速ラインインクジェット複合機のラインアップ強化に取り組むとのことだが、どのような方向に強化していくのか。

A：現在のモデルは、高いプリントボリュームのニーズにしかマッチしていない。また、フィニッシャーの完成度も上げる必要があると認識している。

第2期では、もう少し低めの価格レンジの商品も投入することに加え、大容量インクパックモデルや大容量インクタンクモデルも含めた総合提案により、幅広い顧客に向けてのビジネスにすることを計画している。

Q：オフィス共有では、直販体制を強化するためにチャネル買収などを考えているのか。

A：現時点では買収による強化は得策でない。

インクジェットプリンターの持つ、メンテナンスの手間・コストが少ないなどの特長を活かし、エプソンが大きな固定費を抱えこむことをせずに、複写機を扱う事務機系ディーラーを中心に、IT系ディーラーなどとも関係強化を図っていく。

同時にエプソンでは、チャネルサポートのための経験人材やセールスエンジニアの強化を行う。

Q：オフィス共有では、強みが活かせる分野でのソリューション提供に集中するとあるが、例えば、どういう業種が挙げられるのか。

A：教育機関・学校などでは、限られた施設スペース、予算の中で、プリントコストを抑えながら効率的な印刷が求められており、それらのニーズに対応可能なエプソンの提案は歓迎されている。

また、環境性能の観点からは、低消費電力への評価が高いことはもちろんであるが、インクジェットプリンターは粉塵が飛散しにくいということから、医療機関などでの評価も高い。

●ロボティクスイノベーション

Q：ロボットを支柱事業に成長させるとのことだが、他社に無い強みや特長を教えて欲しい。

A：プリンターやマイクロデバイスなどでグローバルに展開する販売拠点や、生産拠点を活用した顧客サポートが可能。

また、自社製品の組立などで培ったライン構築ノウハウなどを、顧客にソリューション提案できるということ。

さらに、得意とするセンシング技術を使った、力覚センサー、ビジョンセンサーなどを使うことにより、複雑なAIを利用することなく、スマートで幅広い用途に対応したロボットの実現が可能。

以上